

立命館經濟學

總 第
目 五
次 卷

(昭和三十一年度)

立命館経済学 第五巻総目次

(昭和三十一年度)

論 説

株式投資論の構造について	住ノ江 佐一郎	一(一)… 一(八)(15)
アメリカ労働組合運動の戦線統一	平 田 隆 夫	二(一)… 二(四)(15)… 二(七)(15)
—AFLとCIOの合同について—		
近世における都市の下糞利用による農業經營	足 立 政 男	二(八)(16)… 二(20)(16)
—京都と西岡地帯における農業經營の場合—		
直交多項式による傾向線の当嵌め	関 弥三郎	二(一)… 四(1)(金)… 五(10)
銀行機能の史的展開	小 牧 聖 德	二(二)… 六(110)… 九(13)
証券市場における取引の客体としての 有価証券の本質と機能について(上)	住ノ江 佐一郎	二(1)… 二(15)… 二(16)
無額面株式試論	住ノ江 佐一郎	二(三)… 二(五)(25)
ピュヒア『國民經濟の成立』の編成について	淡 川 康 一	二(五)… 二(四)(7)… 三(7)(24)
資本主義社會における矛盾のひとつあらわれ	阿 部 矢 二	二(五)… 三(四)(4)… 五(四)(6)
リカアドオにおける地代理論の發展	井 上 次 郎	五(五)… 六(五)(0)… 七(五)(9)

マルクス主義経済哲学原理 梶 明秀 五・七四(五〇)・一七(五三)

正義の座としての自然法思想の展開(上) 高橋良三 五・二八(五四)・一四(五六)

経営政策の樹立 祭原光太郎 五・一四(五九)・一九(六一)

近世京都商人の商業經營について 足立政男 五・一七〇(六一六)・一金(六三)

税務における監査の在り方 高尾忠男 五・一六〇(六三)・一塗(六四)

反民権論とその基盤 後藤靖六 一七〇(六四)・一三(七六)

—土佐古勤王党の分析—

マルクス主義経済哲学原理(承前) 梶明秀 一六・一三(七二)・一八(七七)

リカードの絶対価値論について 松田弘三 一六・二一(七八)・二〇(八〇)

戦後普通銀行政策の基本的性格 小牧聖徳 一六・二三(七八)・一五(八一)

正義の座としての自然法思想の展開 高橋良三 一六・一五(八二)・一四(八三)

研 究

資本蓄積および恐慌にかんするリカードの理論とセーの市場法則 松田弘三 一六・一九(一九)・一四(一九)

資 料

沈志遠著『政治経済学大綱』 武藤守一 一・一・一・一・一(一九)・一一(一一)

徳川時代における農民の「缺落」について 岡本幸雄 一・一一(一一)・一四(一四)

小規模企業組織に適用される原価管理	寺 島 平	三・四二(四四)	六〇(三一)
カール・ビュヒナーの自叙伝について	淡 川 康 一	四・五・二六(三西)	六七(三西)
狄超白『中国の過渡期における社会主義経済の発展と経済法則』	武 藤 守 一	一・四・四七(五七)	七〇(五七)
式文『中国の過渡期における基本的経済法則についての意見』	武 藤 守 一	五・一六(六四)	一〇〇(五六)
近世丹波馬路村における「両苗郷土」の存在形態	岡 本 幸 雄	五・三一(五六)	三三(五六)
計算機・オペレーションズ・リサーチ・線型計画	祭 原 光 太 郎	六・一五(六一)	一六(六四)
莊鴻湘「中国の過渡期における客観的経済法則に関する若干の意見」	武 藤 守 一	六・一八(六九)	二二(九七)
「労働と律動」に於ける日本関係の記事	淡 川 康 一	六・三三(九八)	二九(九六)
紹 介			
H・R・ライト編『経営の本質』	祭 原 光 太 郎	二・九〇(三四)	一七(三四)
J・ニヒトヴァイス『メクレンブルグにおける農民追放』	大 藤 輝 雄	二・七一(四)	一〇八(五)
レッテル商品についての独乙文献二・三の紹介	木 村 喜 一 郎	三・六一(三三)	一七(三七)
長谷部文雄著『資本論隨筆』の紹介によせて	阿 部 矢 二	三・七一(三一)	一七(三六)
オートメーションと生産管理	祭 原 光 太 郎	四・六一(五六)	一七(四四)
O・モスト『一般統計学』	関 弥 三 郎	四・七七(四五)	一六(四五)
M・フリードマン『L・ワルラと彼の経済学体系』	浜 崎 正 規	四・全(四五)	一〇一(四五)

J・グロデンスキーにおける『市場分析』 住ノ江
佐一郎 五三三(六六) - 五六(充二)
H・ルック『J・H・V・チューネンの経済学説によせて』 大 藤
輝 雄 五二四七(六九) - 五九七(五)

奇 稿

管理会計の経営的性格 船 越 弘 四一〇一(四〇) - 一八(四〇)
創刊五周年にあたつて 藤 谷 謙 二五 卷頭